

2014年1月24日

企業会計基準委員会と欧州財務報告諮問グループの代表者による二者間会合の開催

企業会計基準委員会
欧州財務報告諮問グループ

企業会計基準委員会（ASBJ）及び欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）の代表者は、2014年1月21日と22日に、東京で会合を開催いたしました。

ASBJとEFRAG（以下「両者」という。）は、高品質なグローバルな会計基準の開発のために、これまでも情報交換や意見交換を行っております。しかし、会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）の創設を含む最近の情勢を考慮して、両者は、お互いの見解や状況をより良く理解するため、以前から行ってきた二者間の会合を公式なものとするのが有用と考えました。

今回の会合においては、両者は各々の活動について最近の状況を確認し、二者間、或いは、世界の主要な会計基準設定主体を含む、より幅広い関係者間での協力のあり方について意見交換を行いました。また、技術的な分野について、両者は、概念フレームワーク、金融商品、リース及び保険契約を含む国際会計基準審議会（IASB）で進められている主要なプロジェクトについて、それぞれの見解について議論しました。さらに、両者は、リサーチ活動について、両者がイタリア会計基準設定主体（OIC）と協力して行っているのれんの減損及び償却の論点を含め、どのような形で今後より効果的に協力できるかについても議論しました。

両者は、引き続き、直面する課題や今後想定される論点について意見交換していくことに同意し、次回の会合をベルギーのブリュッセルで開催することを確認しました。

西川郁生 ASBJ 委員長は次のように述べています。

「今回の会合を開催できたことを大変喜ばしく思っており、フランソワ・EFRAG 議長が東京へお越しいただいたことについて感謝を申し上げます。我々は、EFRAG の代表者と、グローバルな会計基準設定における主要な論点についての情報交換や意見交換を行うことは非常に有意義と考えている。これにより、我々が ASAF の会合など会計基準に関連するグローバルな議論に参加する際に、より見識の深い見解を形成することが可能となると考えている。」

フランソワ・フローレス EFRAG 議長は次のように述べています。

「欧州の視点から、国際的な会計基準の設定プロセスに対して有用な貢献を行うためには、IFRS のグローバルなコミュニティーにおける、他の主要な関係者の現在の考え方をよく理解することが不可欠である。EFRAG の ASAF への参加、及び ASBJ との定期的なコミュニケーションは、その目的を達成するため、我々にとって非常に価値があることである。東京での今回の会合により、現在、議論が継続している主要な財務報告上の論点に対する日本の関係者の見解への理解が高まったと考えている。」

企業会計基準委員会 (ASBJ) について

ASBJ は、2001 年 7 月に民間部門の機関として設立された。ASBJ が開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJ は、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJ は、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。

欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) について

EFRAG は、主に以下の目的のために設立された。

- IASB に対してプロアクティブな助言を提供すること
- 欧州におけるすべての上場企業が連結財務諸表の作成において使用する IFRS についてエンドースメントを行うため、IFRS の受入可能性について欧州委員会に対する助言を行うこと
- プロアクティブな会計関連の活動について促進、調整及び実行すること
- 会計指令及び関連する論点について結果として必要になると考えられる変更について欧州委員会に対する助言を行うこと